

## 組織拡大行動

# 大雪を踏みしめ全自交加入を訴える 岩手市内で8000筆を超える署名を集約

(岩手地本)

2014年2月10日 大雪を踏みしめ岩手地本が組織拡大行動を行いました。

岩手地本（森茂委員長）は2月10日、大雪を踏みしめ、駅・病院・デパートなどのタクシー待機所に向き、組織拡大とタクシー労働者なんでも相談のチラシを配布しながら、タクシー事業法の改善を求める請願署名集めをおこないました。



盛岡支部の拡大行動で森委員長は「雪積もる最悪の街の状況となっているが、タクシー労働者の実態を聞き出しながら、なんでも相談の周知と請願署名への協力を訴えていただきたい。

さらに、春闘時期であっても要求すら出来ない労働者の現況を聞き出し、「1人でも加入出来る全自交岩手ユニオンを伝え、ともに闘おうと訴えてほしい」と参加者に呼びかけました。

活動に参加した組合員からは、「稼げるなら何をしてもかまわない、との思いから、職場に組合が必要だという認識が薄い」「経営者に勤務交番の見直しを訴えるが聞き入れてもらえない」「自主的残業や、公休出勤をしているが違反ではないかと思っているが、訴える術を知らない」「賃率は54%（月例49%、預り5%）となっているが、一定の稼働をあげなければ預り部分が1%位まで削減されてしまう」「足切りを達成しても45%の支給率で大変低いのに、足切りまで行かなければ更に支給率を下げられる」など、全自交に寄せられた声が紹介され「地域にタクシー職場が少なかったり、高齢のため半ば諦めている感が見受けられた」と報告がありました。また、県南地区の労働者からは、低い賃金で働かされていることや若年層がまったく入ってこないことで平均年齢が62歳になっている。さらに、運賃改定が行われても一ヶ月30万円前後の營收しかなく、支給率も低いところでは38%という考えられない低さの調査結果もありました。中には、自分自身の労働条件を把握していないと回答した労働者も多くいました。岩手地本では、チラシの配布と請願署名への協力要請を展開し、岩手県内で8000筆を超える国会請願署名を集約しました。今後も組織拡大行動を粘り強く行い、個人加盟も含めて全自交への加盟を訴えていきます。